



# 支援だより



神奈川県立鶴見支援学校  
地域連携グループ  
教育相談チーム 真田  
2023年4月26日発行

新緑がまぶしい季節になってきました。子どもたちの表情も少しずつ新しい学校生活に慣れてきた様子が伺えます。教育相談チームでは、皆さんの学校生活がより充実したものとなるよう、取り組んでいきます。一年間よろしくお願いたします。

## 地域連携グループ 教育相談チームとは？

支援係は、教育相談を中心に、学校生活の中でいろいろな課題が出てきたときに、相談を受けて必要に応じて地域の関係機関と連絡を取り合っ支援のチームを組むなどし、一緒に考えていきます。

また、ベストの状態での学習や活動等に取り組めるよう、支援グッズの貸し出しも行っています。そのほか学習・行動面・発達・地域生活に関すること・通学支援についてなど何かありましたら担任経由でも、直接でもお気軽にご相談ください。

地域連携直通電話 045(573)4793

今年度のチームのメンバーです よろしくお願いたします！

- ・地域連携グループリーダー 稲葉真紀
- ・教育相談コーディネーター 戸井田直子 真田尚子
- ・専門職(心理) 山梶義剛



## おすすめ支援グッズ

今回は昨年度、学校で購入した支援グッズを紹介します。お店で気軽に購入できるものや、支援のために特化したものなど、参考にしてください。



### スタイルキッズ

身体のかなめである腰をしっかりと包み、骨盤を立てることで自然なS字カーブをつくり、正しい座り姿勢を無理なくキープできます。低緊張の子どもが多い中、座ることで姿勢がキープできるので人気があります。正しい姿勢は、腰や頸部への負担を減らし、集中力も増します。サイズは子供用から大人用まであります。



### おりたたみシールド

見ての通りのパーテーションです。軽くて、使わない時は畳んでおくことができます。地域の支援級でよく使われています。個別課題や、個室がないけど一人で集中したいときなどに便利です。机上に載せるミニサイズもあります。ネットでも気軽に購入できます。



### 加重ブランケット

おもり袋が88枚入った4kgある毛布です。筋肉と関節に由来する内部・外部シグナルを伝達する身体内の感覚系に狙いを定めた毛布です。

この感覚系に、重厚な圧迫感を

かけることで、身体的ストレスや情動ストレスが緩和され、リラックス効果が期待できます。

パニックや、落ち着きがない時などにブランケットで圧をかけると落ち着く子どももいます。

## 落ち着いた新学期を送るために！



新学期が始まり、約2週間たちました。初日は戸惑っている子どももいましたが、少しずつ新しい環境に適応しているようです。環境が変わると大人も見えないストレスでいっぱいですね。この時期はいつもより、妙に疲れたり・・・大人も子どもも余裕がない時期ですが、ちょっとした工夫で乗り切りたいと思います。

環境の変化によって家の中で落ち着きがなくなったり、こだわりが強くなったり、落ち着きがなくなったりするのは、学校に慣れていないストレスからくるものと思いがちですが、発達外来の先生の話では「自閉スペクトラム症など障害特性からくる見通しの立たなさ故の不安からきていることが多い」とのことでした。

そのため、部屋を片づけたり、おもちゃを減らしたりなど本人がイライラする要素を減らすよりも、明日の予定や新しい環境での過ごし方をシミュレーションしてみるなど、見通しを立てて本人の不安を取り除くことを優先することが大切です。

「予定の確認」など当たり前のことと思いがちですが、毎日の生活の中で家族の中だと当たり前すぎて言葉だけで伝えたり、伝え忘れてしまうことがありますか？ カレンダーに記入して確認する、スケジュール表を作る、学年だよりを見せるなど、日課の変化が「いつもの毎日」になるまで続けてみてください。新しいことには、事前にどういうことをするのか説明してあげることも大事です。



声かけのポイントは

お風呂の時間 おやつの時間 ご飯の時間 遊ぶ時間

などルーティンを守って、いつもと同じ安心感が得られる時がベストだそうです。

また、不安そうな時は「分からないことがあっても大丈夫だよ」「先生やクラスの友達に聞いてもいいんだよ」と、毎日本人が安心できるような声かけも決して忘れてはいけません。

まもなくゴールデンウィークになります。ちょっと一息できる時間ができるなかで、子どもと向き合える時間もたくさんできると思いますが、ぜひ子どもにたくさん問いかけてあげてください。新しいクラスはどうか、友達はできたか、何が楽しいか、つらいことはないか・・・。問いかけることで、子どもは「聞いてもらっている」「評価されている」と感じて心が満たされます。

大人でも緊張する「新しい環境」というものは、きっと特性のある子どもたちにとってとんでもない出来事だと思います。外で頑張っているこの時期はいつも以上に家庭でしっかりとリラックスできる環境をつくったり、不安な気持ちを理解して受け止めたりできるといいですね。

そのためには大人もゆとりが必要です。連休はゆっくり充電してくださいね。

参考文献 LITALICO 発達ナビ コラム/古都コト子

## 特別支援学校のセンター的機能について



支援担当の仕事に「センター的機能」というものがあります。特別支援学校は、特別支援教育に関する相談のセンターとして、その教育上の専門性を生かし、地域の小・中学校等の教師や保護者に対して教育相談等を行っています。この取り組みは学校教育法第74条にも規定されています。

昨年度の鶴見支援学校での巡回相談・活動報告です。

巡回相談の内訳

	巡回回数	ケース数
小学校（特別支援学校）	10（2）	18（9）
中学校（特別支援学校）	4	4
高校（特別支援学校）	5（6）	4（14）
合計	27	49

ケースの内容	件数		
学習	0	家庭・地域生活	0
行動	37	進路に関すること	1
不登校	3	情報提供	0
発達	1	その他	7